

松陰

第16号 1989.11

ある「学校日記」から

— 中学校教則大綱期の中学校 —

文学部教授 よ も かず み
四方一 渚

岩手県立盛岡第一高等学校の校門を入り、左に曲がると、直ぐ目の前に白亜の殿堂が、優雅なたたずまいをみせる。

そこには、石川啄木・金田一京助など、日本の近現代の各界を彩る多彩な卒業生の写真や経歴のパネル・遺品などがところせましと並べられている。

同校は盛岡藩が人材養成のため設けた藩校「じんかん作人館」や福沢諭吉の「なかわらまきなお慶応義塾」・中村正直の「同人社」とともに「東京の三塾」と言われ、きわめて水準の高かった南部藩の英学塾「きようかんぎじゆく共愼義塾」の精神的伝統をひくもので、東北地方教学の雄であった。

明治五年の「学制」後、紆余曲折を経ながら、明治十三年六月、公立岩手中中学校として開学式を挙行した。

最初の入学志願者は十一名であった。

開校に先立って、五月三十日に制定公布された岩手中中学校の教則によれば同校の学科目は修身・

歴史・文章・地誌・理化学・法学・経済学・数学・画学の九科目で、これを日本の書籍・漢籍・翻訳書をもって教授する規定であった。

十四年七月に中学校教則大綱が制定公布されると、これに沿って公立岩手中中学校でも十五年六月、教則を改正した。

『中学校教則大綱』は、それまで地方の自治に委ねられていた中学校の教育内容を、文部省によって規定し、中学校教育内容の全国的な定律化を行い、中学校の教育水準の維持と統制を図ろうとするものである。

このように明治十五年前後はわが国中学校教育の形成期であったが、この頃の中学校の実情を示す貴重な書類が、盛岡第一高等学校に所蔵されている。その表紙には『日記 岩手尋常中学校』と記されている。

いま、それによって当時の中学校の生活の一端にふれてみよう。

生徒指導のためよく取られた処置は、校内や教室の『掃除』であった。

授業を無断欠席したものは「^(ママ)必^{ひつ}竟^{きやう}教課^{けいこつ}ヲ軽忽^{けいこつ}」にするものとの理由で、校内掃除五回を命ぜられ、遅刻したものは三回掃除をさせられている。

図書や教具を忘れたものも、校内あるいは教室掃除の処罰を受け、試験のとき生徒の控室に『文明史略』や『文章軌範』を忘れて、紛失させたものは「^{ひつ}必^き竟^{きやう}教科重視セサル」をもって五回、同じく試験の際、製図用の器械を忘れたものも「教課^{けいこつ}ヲ軽忽^{けいこつ}」にするものであるとして、三回の校内掃除を命ぜられている。

わけでも授業時間中に教科の担当教員にたいして「不敬ノ言語ヲ発シタル」をもって一週間の教室掃除をさせられたものもいる。

中学生にいたずらや乱暴はつきものであるが、生徒控室で大声を出し、小使をよびつけて騒いだ生徒たちは校内掃除五回を罰として課せられ、また二階の地板の穴からインクをこぼして一階の床を汚した^{かど}簾で七回の校内掃除をさせられたものもいる。

いたずらも度が過ぎると退学を命ぜられる。ある生徒は教室に付いている戸棚にもぐり込んで「汚臭ナル^{および}学動^{および}二及タル」をもって退学の憂き目をみている。

元気のよい生徒も多く、粗暴な風も強かったが、十六年四月の校会（職員会議）で、「就^{しゆうか}課^{しゆうか}時間生徒教場二入リテ雑踏ヲ極ムル者往々コレアルヲ以テ其弊ヲ矯正スルコト」を申し合わせているが、生徒の態度は容易に改まらず、同年十一月にはこの件のみを議題にして臨時校会を開き、「受持ノ生徒二粗暴ノ^{これなきよう}学動等無之様時々説諭スベキコト」を改めて決めている。

また、学校から給与された書籍を破損したり、

汚した場合は『償金』を払った。

いわゆる罰掃除も弁償も「^{せいぎ}成規^{せいぎ}二照シ」で行われるものであったが、中学校教則大綱準拠教則が^{しこう}施行され、校則が改正されてからは、罰掃除は少なくとも「日記」への記載はほとんど見られなくなった。

この頃になると学校の諸規則も整備してくるが十六年十一月に、学校から貸し渡された『第一リードル』を^{はき}破毀した生徒に対して「^{きゆうたい}書籍^{きゆうたい}給貸規則」によって修覆料十銭を申付け、墨で本を汚したり紛失した場合、二銭、三銭、五銭の償金や現物で償還を求めたり、現物が手に入らない場合にはその本の原価二十銭を償還させられた例もあった。

気の毒だったのは、のちにわが国中世史の権威となった^{はらかつろう}原勝郎である。

原は在学中から歴史や数学の成績は抜群であったが、七級生（一年後期）のとき学校から給貸されていた『第二リードル』を、他の生徒に破損され、そのため「^{そろう}他人ノ為メニ破損セラレタルハ必竟官品ノ取扱方疎漏二出ツル」をもって、同校教則第四十一条但書により「^{かいちよく}戒^{かいちよく}罰」の処分を受けている。

生徒処罰の事例をみると、学校の施設設備の汚損や無断欠席・遅刻、教師への暴言など今日の学校生活と変わらないが、特に教科書・書籍の取扱いが処分対象になっている点が目につく。



公立岩手中学校
『白壁校百年史写真集』昭和56年より

これは原の場合に見られるように、教科書が「官品」として学校から貸与されていたという事情にもよるであろうが、教科書が学習活動の中心教材であるということのほか、知識・徳育をそれから学ぶものであるという考え方もあったのではないとも考えられる。

十年代の初めにはまだ教科書に対する国の規制はなかったが、自由民権運動の高揚や儒教主義の復活などにともない、文部省は十三年頃より教科書への統制をつよめていった。

学校は使用する教科書をあらかじめ文部省に伺出て、認可されて後でなくては使用することはできなかった。

かくして中学校で使用される教科書はほぼ全国的に固定化していき、修身では『四書』などの漢籍が、歴史では『皇朝史略』や『神皇正統記』、『大日本史』など尊王愛国思想を説く教材が用いられた。自然科学系や西洋史関係の教科書は、翻訳書を用いることとなった。

岩手中学校でも「小学」・「論語」・「祝詞考」、ウィルソンのリーダーやブラウンの文法書、『日本地理要略』・「輿地誌略」・「皇朝史略」・「貝氏博物学」・「物理全誌」・「羅斯珂氏化学」・「宝氏経済学」・「馬耳蘇氏記簿法」などが用いられたが、これらは全国に共通するものであった。

注目すべきことは、十七年二月五日の項に、「宮内省蔵版幼学綱要今般御校教科用書充用致二つきがつかひようちゆうまいきゆう はいとうかたとりしらべほう ちこれありたきむね 付学科表 中毎級二配当方取調報知有之度旨学務課ヨリ照会セウ」れ、本校教科書に加えられている点で、中等教育においてもこのような形で儒教主義の教育が進められていった。

教師たちの教材研究・学習意欲も旺盛であった。十六年五月、地理の『日本地理要略』の授業の参考にするために、国内各府県の中学校や師範学校

へ照会してその管内の地誌略や地図を購入したいが、十五年度の郵便税雑費の予算では不足の見込みである。そこで、旅費からの流用を県に願い出て認められ、支那歴史の教材研究のため『廿一史』を求めたいが書籍購求費の残金は七十円しかない。不足分百三十円を校長の月給種目より流用したいと願い出て、これも認可されている。

中学校教育の正格化とともに新しい教科・教材も増え、学習内容も高度化するなかで、教師たちは教材研究に努めなければならなかった。

十七年四月、「本校教科漸次進歩スルニ随ヒ授業必要ノ書籍器械等購求^{いたしたきもの}度^{かた}者夥多有之本年度経費書籍器械費ノミニテハ到底金額不足ニテ一時買入^か兼」ねるが、教員の月給に残金が出る見込みなので二百三十円の流用を願い出、すべて「聞届」けられた。

また、翌十八年の記事にも「本校教科用書籍ヲ除クノ外参考二要スル書籍之儀ハ自今総テ経向之^{ほかに}上購求可致^{のぎ}」と、授業に必要な参考文献については、経向のうえすべて購入すべしと県は達している。かくして『欧文学話文』やチェンバーの『第一リードル』などの書籍の購入を申請してただちに認可されている。

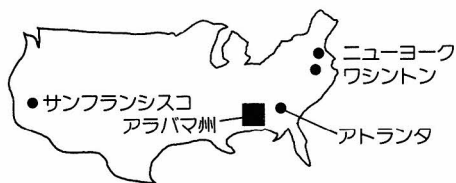
一方、十六年九月一日の校会で『書籍縦覧室』を設け、英語の辞書数冊を備え置き、訳読の参考とすることを決めた。

教師たちのこのような学習意欲は『中学校教則大綱』の制定公布後の中学校教育の充実が、緊要な課題として認識されていたことを示すものであろう。

(1989年10月8日)



「ジュニア大使友情使節団」の訪米に同行して



教養部教授

おお はし けい ぞう
大橋 敬三

感謝、挨拶、依頼、詫びの気持ちを表現させる
ことの、しつけ教育は、現在の日本の子供達に、
最も必要なことである。

まえがき

外務省、及び、米国アラバマ州政府が後援し、
国際交流サービス協会（外務省外郭団体）が主催
する「ジュニア大使友情使節団」（全国各地の、小
学4年生から中学3年生までの男女小中学生で構
成）の団長として、第1班（30名）の7月22日か
ら8月5日まで、及び第3班（28名）の8月6日
から19日までの2回にわたり、サンフランシスコ、
アトランタ、アラバマ州、ワシントンD.C.及びニ
ューヨークを訪ねたので、その間に私が感じたこ
と、及び子供達が受けた印象等について述べる。

今の子に必要な躰け

私はこの旅行中、団員に、米国人と話すときに
は、その人の目を見て話すこと。

何かサービスを受けたら「THANK YOU」、
朝と寝る前には「GOOD MORNING」と、
「GOOD NIGHT」の挨拶、ものを頼むときには
「PLEASE」、許しを求めるときには「EXCUSE
ME」と言うよう、厳格に実行させたが、これが行
く先々で米国人に好感を与え、帰国前にはそれら
の言葉が自然と出てくるようになっていた。

言葉の障害を乗り越えた 心と心のふれあい

子供達にとって、一番楽しくかつ印象深い思い
出となったのは、北アラバマのキャンプ場で、
同年配の米国の子供達との交歓会であり、また、
同地域にあるアテネでの3泊4日の米国人家庭で
の、ホームステイであった。

これらを通じて、彼等が、学びとったことは、
言葉の障害を乗り越えての、心と心の触れ合い、
スキンシップの大切さであり、また、米国人の心
の大きさや余裕、米国南部人の、いわゆる、
「SOUTHERN HOSPITALITY」（南部人の
親切なもてなし）であった。

さらに、食前のお祈りや、日曜の教会礼拝を通
して、米国人が、厚い宗教心を持っていることを
知った。

僅か4日間の接触にもかかわらず、ホストファ
ミリーとの別れに際して、子供達は見送りにきた
ホストファミリーと肩を抱きあい、涙を流して泣
く光景が随所に見られた。

彼等にとっては、一生の思い出となったに違
いない。

歴史を大切にするアメリカ

米国の歴史は、僅か200年であるが、それだけに歴史を大切にし、歴史的遺産を保存しようとしている様に思われる。

例えば、「風と共に去りぬ」で有名なアトランタの郊外にある、ストーン・マウンテン・パークの岩肌には、南北戦争の、南軍の勇士ジェファソン・デイビス南部連盟総長や、ロバート・E・リー将軍、トーマス・ジャクソン中尉の、世界一大きな彫像が彫られている。

公園内には、南北戦争前の、開拓期の様子を再現する19の建物が復元されており、当時の服装をした婦人が、説明にあたってくれる。



「風と共に去りぬ」(U I P映画 提供)

また、アラバマ州北部には、ヘレン・ケラー女史の生家や19世紀の中頃から20世紀の始めにかけて活躍した、南部の英雄ジョー・ウィーラー将軍の家、セントルイスブルースを作曲し、ブルースの父と言われている黒人ウィリアム・C.ハンディーの生家、アラバマ州憲法を起草したコンスティチューションホール等である。

南北戦争と言えば、南部人は、北部人に対して今もって敵愾心^{てきがいにしん}に近い強い対抗心を持っており、アラバマでは各所に、かつての南軍の旗を掲げているのを見掛けるし、南部人としての高い誇りを持っている。

北部の工業地域に対し、南部は農業地域であるが、その南部に、今や300社近い日本企業が進出してきている。

南部人の、労働意欲の高さ、労働組合の力があまり強くなく、南部各州が、積極的に日本企業の誘致に努めているからである。

夢翔ぶ！宇宙科学教育

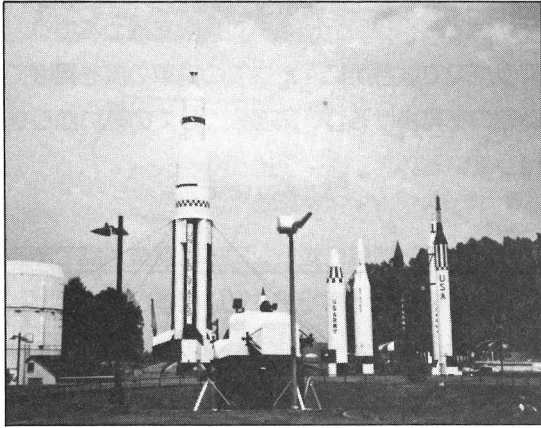
米国には、博物館、図書館、その他の学習施設、レクリエーション施設等が豊富にあり、かつ充実している。

しかも、いずれも営利を目的とせず、無料ないし僅かの使用料で利用できる。

今回の旅行中訪れた、アラバマ州ディケーターにある州立クック自然博物館には、自然科学関係の展示が、質・量ともに大変豊富で、視聴覚施設を完備した講義室が設置されている。

また、同州ハンツビルには、NASA(航空宇宙局)の宇宙センターがあり、米国のすべての実物大ロケット、スペースシャトル、将来建設予定の宇宙基地が見られるし、宇宙飛行士の各種訓練装置を体験することもできる。

その他、宇宙科学に関する視聴覚教育施設も完備しており、同所に泊まり込みの、1週間の宇宙学校も開設されており、米国が、青少年に対する宇宙科学教育の普及に努めていることがよくわかる。



NASA宇宙センター

充実した社会・文化・ 教育・施設

ワシントンD.C.では、世界的に有名な、スミソニアン航空・宇宙博物館、及び、自然史博物館を見学した。

『航空・宇宙博物館』のほうは、過去から現在に至る、多種多様の航空機・気球・ロケット、宇宙船等の実物が展示してあり、アポロ16号が持ち帰った、月の石に触ることもできる。

『自然史博物館』には、人類の起源、進化及び文化、動物、昆虫、海洋生物、鉱物(含宝石)、流星に至るまでの、多種多様な関連収集アイテムが展示してあり、その素晴らしさに、驚くばかりである。

残念ながら、アメリカ史博物館、美術館、博物館、動物園等は、時間の関係上、訪ねることができなかった。

これらの事から、米国がいかに、科学、文化、歴史、美術の、教育や普及に、力を入れているか推察される。

のびのびと夏休みを過ごす アメリカの子供たち

レクリエーション施設についても、たとえば、アラバマ州北部だけでも、多数のキャンプ場が、設けられており、そこには、キャンプするに必要な設備や、陸上や水上でのスポーツ施設が、完備されており、大人から子供に至るまで心身を鍛えながら、休暇を、楽しむことができる様になっている。

学校では、夏休み中、子供達には宿題を課さず、自由、かつ、のびのびと、休暇を過ごさせているようである。

ほんとうのアメリカ

ワシントンD.C.の、人口の7割が黒人で、現市長も、黒人であることには、合衆国の首都・連邦政府の所在地ということから考えて、ちょっと、意外であった。

ニューヨークは、活気はあるが騒然としていて、犯罪も多く、違和感を感じる大都会である。

やはり、ほんとうの、米国及び米国人を知るには、アラバマの様な所が良いのではないだろうか。



国際感覚と自国への誇り

今回、使節団に同行して感じたことは、日本の将来を背負っていく人々には、国際的視野と感覚が、是非とも必要であり、その育成は、早ければ早いほど良く、英語についても、外国人と話すことを、恐れなくなり、実際に、わずかな言葉でも使って、分かってもらえたということは、大きな英語学習上の自信にもつながり、英語を勉強しようとする意欲を、掻き立てたものと思う。

子供達は、米国を知ることにより、逆に、日本を、再認識したに違いない。

また、過保護の時代にあつて、小さい頃から、このような旅行に参加させることは、独立心、自主性、及び団体協力精神の涵養に、きわめて効果的である。

以上の意味において、この使節団の派遣の意義は大きい。

リーダーとして、子供達の指導には、硬軟を噛み分け、叱る時には叱り、褒める時には褒めるという柔軟な指導が必要である。

あとがき

今回の第1班の場合、某3市から補助金が出たため、各市10名の割り当てに対し、90～150名の応募があったと聞く。

各地方自治体、中央政府、経済団体等は、長期的視野から、将来の日本を背負って立つ青少年にこのような国際感覚の育成に力を入れ、また、そのための教育投資をすることが、必要ではないだろうか。

(1989年10月1日)

掲示板

利用可能冊数の枠拡がる

平成元年10月1日より学生の利用可能冊数の枠が拡がりました。

従来、「貸し出し」や「書庫資料の閲覧」等で学生が利用できる冊数は、合計5冊まででしたが、この度、各種利用方法（下表参照）を別枠にすることにより、通常の利用において合計8冊まで、『卒論貸出』を受ける人は11冊まで利用できるようになりました。

大学院生・教職員は従来通りです。

利用方法	冊数	期間	
館外貸出	3冊	2週間	それぞれ 別枠
卒論貸出	3冊	3週間	
当日貸出	合わせて	当日中	
書庫資料閲覧	5冊		合計11冊まで利用可

※夏休み等の長期休暇中は、『館外貸出』（3冊）が、『休暇貸出』（5冊）にかわりますので、最大13冊まで利用できます。

(第二司書課)

編集後記

秋も深まり「林間に酒を煖めて紅葉を焼く」(白居易)時節となりました。

今回は、教育実習をテーマにしましたが、筆者の方々には、それにあまりとらわれずに書いていただきました。蓋をあけてみると、明治時代の中学校風景や現代における青少年の国際化教育の必要性のこと、また、教育実習に行ってきた学生の談など、いずれも有難く読ませていただきました。

御多忙の中を執筆くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。また、小誌作成にご協力くださいました岩手県立盛岡第一高等学校・国際交流サービス協会・UIP映画の皆様にも心よりお礼申し上げます。

(山下・宮田)

教育実習 with ライブラリー

文学部 史学地理学科 4年

えじま けんいち
江島 賢一

私は6月上旬、教育実習で母校の高校に行っていました。以下は、その教育実習の体験記？なるものです。

実習課題は社会科の地理、実習内容は「都市の発達」についてでした。私としては、世界各地でみられた、古代都市から中世・近世・近代を経て現代の都市へと移りゆく過程を、「実例」を交えながら説明をしていくつもりでした。

ところが、「実例」を出すためには参考文献が不可欠です。しかし、参考文献についての準備は、実習直前になってしまっていたと、記憶しています。私の手持ちの文献で間に合えばよかったのですが、当然のことながら、不十分でした。そこで、図書館の文献を利用することにしましたが、なにぶん直前であつたために慌ててしまい、書架に並んでいる本をタイトルのみで判断し、充分吟味することなく2冊だけ借りていきました。一冊は「当たり！」で、もう一冊は「はずれ！」でした。

さて、実習の結果ですが、内容について賛否両論がありましたが、おおかた、文献のおかげで(?)好評でした。

私は好運にもどうにかかなりましたが、来年度、教育実習に行かれる方が、このような失敗をしないよう、文献検索の際のいくつかの留意点を挙げておきたいと思います。

1. 文献検索は余裕をもって行なうこと

(直前になって慌てることのないよう。)

2. 分類記号を大いに活用すること

(分類記号は、いわば本の居住区(?)のようなものですから、一度引くことにより芋づる式に文献を見つけることができる。しかし、ときには一軒屋のこともあり、住所不定のこともある。そのときは、さびしい。)

3. 文献をそのまま引用しないこと

(文献の中には、理解しにくい内容のものもある。実習校で教える際、生徒が理解しやすいよう、わかりやすい説明に練り直す。)

図書館には、まだ未知のものがたくさんあると思います。私自身、図書館を「上手に活用できている」とは、とても思えません。だからこそ、今後も大いに活用していきたいと思っています。

よろしかったら、あなたもごいっしょに、with ライブラリーしませんか。(1989年11月11日)

